平成29年10月24日

各　　位

会　社　名　日本金銭機械株式会社
代　表　者　代表取締役社長　　上　東　　洋次郎
（コード番号：6418　東証１部）
問い合せ先　取締役上席執行役員
経営企画本部長　　高　垣　　豪
電　　　話　（06）6703－8400（代表）

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成29年５月11日に公表した業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

１．業績予想の修正について

平成30年３月期第２四半期（累計）連結業績予想値の修正（平成29年４月１日～平成29年９月30日）

	売上高（百万円）	営業利益（百万円）	経常利益（百万円）	親会社株主に帰属する四半期純利益（百万円）	１株当たり四半期純利益
前回発表予想（Ａ）	15,700	550	550	290	9円78銭
今回修正予想（Ｂ）	15,000	960	1,060	450	15円82銭
増減額（Ｂ）－（Ａ）	△700	410	510	160	－
増減率（%）	△4.6	74.5	92.7	55.2	－
(ご参考)前期実績	15,298	1,147	566	403	14円99銭

２．業績予想の修正の理由

当期における当社グループを取り巻く事業環境は、コマーシャル事業では、欧州や国内での商談案件が増加する一方で、ゲーミング事業では、北米地域におけるカジノホールの新設案件が少なく、欧州ではドイツでの法規制による市場縮小懸念が続いております。また、国内の遊技場向機器事業では、遊技機規則の改正などの影響により、今後の市場の見通しについて不透明な状況が続いており、ホールの設備投資は低調に推移しております。

【第２四半期累計期間】

ドイツでの法規制改正では、連邦法が改正される一方で各州の法改正は揃わず、先行きの市場縮小懸念が続くものの、ゲーム機の販売台数は想定ほどは落ち込まずに推移しております。また、ドイツ以外の市場ではシェア拡大を図るとともに、プリンター製品やコマーシャル事業向け製品の販売が伸長しております。他方、日本国内における遊技場向機器事業では、前述の遊技機規則の改正などに伴う先行きの不透明感の拡大から店舗数が減少するとともに、ホールの設備投資意欲は低下しており、設備機器の販売は期初の想定を下回る状況が続きました。

以上の状況の下、売上高は、遊技場向機器の売上低下による影響が大きく、前回公表値を下回る見通しとなりました。利益面では、欧州地域の販売が堅調で利益が上積みされるとともに、コマーシャル市場の事業環境等を勘案し、開発経費の支出を先送りしたことなどから、前回公表値を上回る見通しであります。

【通期】

下期については、概ね上期と同様の事業環境が継続することが見込まれるものの、現時点では、前回公表の業績予想からの変更はありません。状況に変化が生じた場合には、適宜適切に開示してまいります。

なお、配当金につきましては、第２四半期末、期末の配当金につきましては、期初公表値の変更予定はありません。

以　上

(注) 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。